

女性教員のライフコース—結婚・出産行動を中心に—
○大塚 洋子 (福島大)

【目的】女性教員のフルタイム継続就業が結婚、出産行動に及ぼす影響をライフコースの視点から検討する。

【分析対象】岩手・新潟・神奈川・愛知・兵庫・福岡各県在勤の公立小・中学校の女性教員のうち結婚経験をもつ子供のいる1933年4月1日から1934年3月31日生まれ481名と1938年4月1日から1939年3月31日生まれ248名に対する郵送調査の結果。および厚生省第9次出産力調査から得られた1938年度生まれの有配偶の子供をもつ女性304名である。

【結果】①女性教員では1938年度出生コーホートの方が、結婚、第1子出産、末子出産の経験年齢が1933年度出生コーホートより遅い。

②女性教員の完結出生児数は、1938年度出生コーホートの方が少ない。

③1938年度出生コーホートにおいて一般女性と比較すると、女性教員の方が、結婚、第1子出産、末子出産のタイミングが遅い。

④1938年度出生コーホートにおいて一般女性と比較すると、女性教員の方が結婚から末子出産までの期間が長い傾向が見られる。

⑤女性教員1938年出生コーホートを、1959-1964年結婚コーホートと1965-1970年結婚コーホートで比較すると、1965-1970年結婚コーホートの方が出産期間が短い傾向が見られる。

⑥1959-1964年結婚コーホートの女性教員を出生年度で比較すると、1938年度出生コーホートの方が末子出産までの期間が短い傾向が見られる。